

特集

フォーラム 2016 報告

全国被害者支援ネットワークは日本被害者学会、犯罪被害救援基金、警察庁との共催により「全国犯罪被害者支援フォーラム2016」を9月30日（金）午後1時から東京都千代田区のイノホールで開催しました。21回目の今フォーラムのテーマは『犯罪被害者支援の展望～第3次犯罪被害者等基本計画を中心にして～』でした。開会挨拶に立った平井紀夫全国被害者支援ネットワーク理事長は、全国の被害者支援センターや行政機関、警察などの関係者、一般の方も加えた約450人の参加者を前に、犯罪被害者等基本法に基づく第3次犯罪被害者等基本計画が4月にスタートしたことを受け「第3次基本計画のこの5年間で犯罪被害者支援が一層前進することを強く期待している」と述べました。そのうえで犯罪被害の

態様、犯罪被害者の状況とも多様化している現状を踏まえ「今フォーラムで今後の課題や方向性を議論し、支援活動の充実につなげてほしい」と呼びかけました。続いて松本純国家公安委員会委員長（北島信一同委員会委員代読）、中本和洋日本弁護士連合会会長（水中誠三同連合会副会長代読）から来賓挨拶をいただきました。

平井紀夫理事長

犯罪被害者支援功労者表彰では、特別栄誉章1名、栄誉章2名、犯罪被害者支援功労団体表彰3センター、犯罪被害者支援功労職員表彰2名に表彰状などが授与されるとともに、犯罪被害者支援活動に支援・協力していただいたお1人と1社に感謝状が贈られました。

引き続き第1部では「被害者の声」として、2011年3月3日、当時3歳だった最愛の娘、心（ここ）ちゃんの命を小児性愛者によって奪われた父親、清水誠一郎さん（45）に「心（むすめ）が教えてくれた大切なこと。～支援によって生かされた私たち家族～」と題してご講演いただきました。

清水さんは妻、真夕さんとともに登壇し、当時の心情とともに心ちゃんへの思いやその後の気持ちなどを気丈に話されました。末っ子だった心ちゃんは両親と出かけたスーパーでトイレに行ったまま行方不明になり、翌日変わり果てた姿で見つかったのです。「なぜ一人でトイレにやったのか」と清水さんは自分を責め、一度は家

フォーラム 2016 平井紀夫理事長による開会挨拶

族で死を決断したそうです。そんな一家を蘇らせたのが「くまもと被害者支援センター」の支援員の人たちでした。清水さんたちに寄り添って、裁判所や検察庁、心療内科へと付き添い、被害者参加制度で参加した裁判でも支え続けました。「私たちが生きているのは、ずっと支え、助け、励ましてくださった支援員の方々のおかげ」と清水さん。

事件から6年近く経っても「苦しみは癒えず、気持ちは何一つ変わらない」という清水さんですが、今後は心ちゃんのことや命の大切さを伝え「犯罪を減らし、犯罪被害者が生きていける社会に」と訴える講演活動に打ち込む決意を述べられました。終わりに心ちゃんの成長をたどって可愛い表情や仕草があふれるDVDが上映され、会場は深い感銘のなかで被害者支援活動の一層の充実を誓い合う場になりました。（4～5頁に詳報）

第2部のパネルディスカッションは第3次基本計画のスタートを受け「これからの犯罪被害者支援」をテーマに、専門職の活用や自治体の総合的対応窓口の充実強化、被害が潜在化しやすい被害者への対応、広報啓発活動などを巡って政府、自治体、犯罪被害者支援センターからのパネリストが現状と今後の課題や方向性について具体的な取り組み例を交えて議論し、多くの示唆とヒントを与えました。（6頁に詳報）

最後に黒澤正和犯罪被害救援基金専務理事が閉会挨拶を述べ、午後5時閉会しました。

黒澤正和専務理事による閉会挨拶